

氏名	長岡 由紀子
よみ	ながおか ゆきこ
英字	NAGAOKA Yukiko
プロフィール	病院臨床及びスクールカウンセラーとして、心理臨床活動に従事したのち、常葉大学（旧浜松大学）健康プロデュース学部心身マネジメント学科に所属。同大学大学院臨床心理学専攻において、臨床心理士、公認心理師の養成に携わる。2022年より現職。臨床心理士、公認心理師。
職位	教授
最終学歴	中京大学大学院体育学研究科修士課程
学位	博士（体育学）（鹿屋体育大学より論文にて学位授与）
所属学会・役職	日本心理臨床学会、日本芸術療法学会、日本遊戯療法学会、日本箱庭療法学会 日本臨床心理身体運動学会、日本児童文学学会、日本児童文学者協会 絵本・児童文学研究センター
専門分野	臨床心理学、表現療法、児童文学
研究テーマ	内的世界におけるイメージの物語性に関する研究
主な教育・研究及び社会的活動及び業績	<p>[最近の主な研究論文]</p> <p>ミヒヤエル・エンデの創作における体験的要因. 瀬木学園紀要23, 19-27, 2024</p> <p>『モモ』の神話性—「語り」の視点から—. 瀬木学園紀要22, 13-21, 2023</p> <p>脳梗塞となり入院した高齢女性との面接—体験知が「私の教養」の物語となるまで—. ヘルメス心理療法研究, 30, 113-121, 2023</p> <p>全体性の回復過程における物語の役割—『はてしない物語』におけるバスチアンの再生から—. 瀬木学園紀要, 21, 23-30, 2023</p> <p>粘土における立体造形と平面造形の表現の違い. 常葉大学健康プロデュース学部雑誌, 16(1), 65-72, 2022</p> <p>危機は静かに降りつもる—『はてしない物語』における二つの危機—. 常葉大学臨床心理事例研究, 12・13巻合併号, 35-41, 2022</p> <p>「名前」の生きる二つの世界—『はてしない物語』とゲド戦記『こわれた腕輪』の女王たち. ヘルメス心理療法研究, 26, 121-127, 2021</p> <p>道の流れるとき. 常葉大学臨床心理事例研究, 11(1), 31-37, 2020</p> <p>遊びにおける「役割」が「内的な枠」として作用することの意義—ボードゲームにおける偶発性と流れに着目して—. 常葉大学健康プロデュース学部雑誌, 13(1), 57-64, 2019</p> <p>いのちの讃歌—金子みすゞがみつめた「いのち」—. 常葉大学臨床心理事例研究, 10(1), 31-38, 2019</p> <p>イメージ体験からみる表現過程の多様性—粘土、描画、物語作りより—. 日本芸術療法学会誌, 48(2), 78-88, 2018</p> <p>[主な著書]</p> <p>『ユングの芸術』（監訳）山中康裕（共訳）高宜良，長岡由紀子，岸本寛史／「C. G. ユングと現代芸術」「現代芸術におけるユングの色の概念」「収集家ユング」「『赤の書』における彩色頭文字抜粋」青土社，2022</p> <p>『山中康裕の臨床作法』分担執筆／「《時間の花》との出会い」日本評論社，2020</p> <p>『心理療法の第一歩』分担執筆／「人間関係の科学性」「臨床心理学の研究」「心理臨床場面という異界で」「受理と継続面接」創元社，2017</p> <p>『揺れるたましい』分担執筆／「内なる揺れるものの存在—ウルトラマラソンと千日回峰行、その静寂のなかから—」創元社，2012</p> <p>『心理臨床の広がりや深まり』分担執筆／「心理臨床とリアリティー—多層な現実が重奏する時—」遠見書房，2012</p> <p>[その他]</p> <p>心理療法における「物語」の可能性—異界からの贈り物—. 上海箱庭療法センター講演，2022</p> <p>「心理療法における児童文学」第8回表現性心理療法国際シンポジウム（ワークショップ）講師，2021</p> <p>その他詳細は、researchmap（https://researchmap.jp/）参照</p>